



29回生2年生 To Be With Youの合唱をギターの伴奏で

Column 02 “楽譜誕生秘話”

そのS君が高校2年の時、学校あげて行われる合唱祭で、大好きな曲をバンド伴奏で合唱するために編曲をしたという話を聞いた。

S君は寮の勉強机に向かい、紙が破れるまで譜面を書き直し、カセットテープが延びるほど聞き返して楽譜を作りあげた。それを横で見ていた英語ペラペラの親友Y君（彼も“インカの乞食”の一員）が、英語の苦手な人でも英語らしく歌えるよう“ネイティブ”カタカナ英語を添え、楽譜は完成する。それが、本曲集収録の“Somebody to Love”のルーツとなる。

ビデオで見せてもらったS君の指揮で歌われた“Somebody to Love”の大合唱は見事なものだった。その頃、教師としてどうやっていくのか、海のものとも山のものとも判らない時期だったが、強く突き動かされるエネルギーをそこから確かに感じとっていた。頭の片隅にはいつもあの“Somebody to Love”の残像が消えることはなかった。

生徒から再び“Somebody to Love”を歌いたい！と希望の声があがった時、真っ先にS君に電話をかけた。快諾してくれたS君から合唱編曲譜を譲り受け、私が補筆し、ピアノの得意な生徒がピアノ伴奏だけでもロックの迫力を出せるように連弾編曲をした。

その時の指揮は先のラグビー・ワールド・カップに出場したT君だった。スクラムハーフのT君が出したボールでトライが決まる、まさにそんな爽快な“Somebody to Love”だった。

その後も“Somebody to Love”は、ドラムを入れたり、フル編成のバンド伴奏でやったり、状況に合わせて姿を変え、合唱の得意な学年の切り札として愛され続けている。

Column 03 “どこにもない合唱”

音楽教師になって最初の数年、中高生用に作曲されたいわゆる合唱教材に悪戦苦闘していた。どうも、しっくりこない。こんなはずはない……。合唱コンクールや卒業生を送る合唱祭は、毎年、自分にとっても苦痛だった。

ある時、「合唱コンクールの自由曲にこの曲を歌いたいんですが…」と当時のヒット曲のテープと雑誌の付録のメロディー譜を持ってきた中学生がいた。合唱編曲の楽譜は出版されてはいなかった。「それじゃあ、（合唱編曲を）作ってみてごらん。やり方がわからないところは教えてあげるから。」

自分の中学時代の合唱コンクールのことを思い出していた。「流行っている大好きな曲（その頃流行っていたフォークソング）を合唱コンクールで歌わせて下さい。合唱編曲は自分たちでやります。」「そんなものはダメだよ」先生の一言に意気消沈した。

そんな思いだけはさせたくない。かと言って「先生が編曲してあげる」では近道過ぎる。欲しいものは悪戦苦闘して手に入れなければ音楽の神様は微笑んではくれない。

そこから生徒と先生の“編曲ごっこ”がスタートする。ほとんど生徒の手で編曲が完成してしまうこともあれば、逆に9割以上が私の仕事になってしまうこともある。

合唱向きの曲、向いてない曲、勿論それはある。どんな曲でもいいわけではない。それを「そこそこ（ここがポイント！）」見極めたうえで生徒の希望にGoサインを出す。どこにもない楽譜で自分たちの好きな曲を合唱する。降ったばかりの雪の上に足跡をつけるような嬉しさ楽しさ。神様が微笑む。それこそ音楽。

ある曲は何度も歌い継がれ、そのたびに少しずつ編曲にも手が加えられていった。いつの間にか、たくさんの合唱編曲が手元に残っていた。



田中先生のお話は、次回も続きます。「デンチュー先生ねずみ」

茗溪学園中学校高等学校
〒305-8502 茨城県つくば市稲荷前 1-1
TEL : 029-851-6611(代) FAX : 029-851-5455
HP : www.meikei.ac.jp E-mail : entry@meikei.ac.jp

「生徒と先生の手作りの音楽が学校中にあふれている」そんな楽しい様子の始まりと伝統を、デンチュー先生のお話で紹介です。
茗溪学園には、勉強だけではなく、スポーツ・美術・音楽など、高校生の興味を引くものがあふれています。それらの多くは生徒とデンチュー先生のような「キャラクター」の共同作業で始められたようですね。
以前の訪問時に、私もこの楽譜集を田中先生からいただきました。かつての合唱少年（私？）も、子どもと一緒に十分楽しめました。感謝！